講座

発掘された岡崎の遺跡

平成30年2月17日（土）

会場：愛知県青年の家

資　料

ごあいさつ

岡崎市は愛知県の中央部にあります。岡崎藩五万石の城下町時代から、三河を代表する都市の一つとして知られており、平成 15 年 4 月には中核市に指定されております。市内には多数の遺跡が知られており、発掘調査等によりその性格が明らかとなっている遺跡も少なくありません。

このたび、愛知県埋蔵文化財センターと岡崎市教育委員会では、平成 30 年 2 月 17 日に愛知県青年の家を会場として、近年発掘調査が実施された遺跡の成果報告会を「講座　発掘された岡崎の遺跡」というタイトルを付けて紹介するに至りました。

今後、これらの遺跡の調査成果が多くの方々に知られ、さらには埋蔵文化財保護に寄与する事を願っております。

最後になりましたが、今回のイベントを開催するにあたり、各方面の方々にご高配を賜り、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきました。厚くお礼申し上げる次第です。

平成 30 年　2 月　17 日

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

岡崎市教育委員会

目次

西牧野遺跡（樫山町・牧平町）　酒井俊彦（愛知県埋蔵文化財センター）.....2
成瀬友弘（愛知県埋蔵文化財調査センター）.....6

八畝畑遺跡（正名町）　松田　訓（愛知県埋蔵文化財センター）.....8
宮腰健司（愛知県埋蔵文化財センター）.....10

車塚遺跡（岩津町）　池本正明（愛知県埋蔵文化財センター）.....12
鈴木恵介（愛知県埋蔵文化財センター）.....14

滝町古窯（滝町）　武部真木（愛知県埋蔵文化財センター）.....16

岡崎城跡（康生町）　中根綾香（岡崎市教育委員会）.....20

＊休憩中に映写していたものは , 以下のものです。
岡崎市教育委員会　視聴覚ライブラリー作成の「岡崎城　～新しい発見をもとに、歴史をたどる～」

この映像は「愛知県生涯学習情報システム　学びネットあいち」の以下のページ　にて公開されています。
また、他にも多数の Web 教材が投稿されています。どうぞお役立てください。
http://www.manabi.pref.aichi.jp/search/searchdtl.aspx?stdycd=17100005

愛知県生涯学習情報システム
学びネットあいち
学びネットあいちは、生涯学習情報を総合的に提供するシステムで、動画などの学習教材も提供しています。

「学びネットあいち」は公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団が愛知県教育委員会から委託を受けて運営しています。

公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県生涯学習推進センター
〒 460-0001　名古屋市中区三の丸三丁目２番１号
電話：052-961-5333

にしまきの
西牧野遺跡

愛知県岡崎市樫山町・牧平町

調査面積　38,250 ㎡

調査期間　2009 年 4 月～ 2010 年 3 月
2010 年 4 月～ 2011 年 3 月

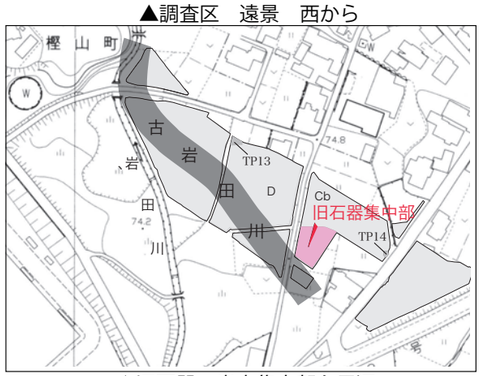
愛知県埋蔵文化財センター　酒井俊彦・愛知県埋蔵文化財調査センター　成瀬友弘

西牧野遺跡は樫山町・牧平町に所在します。地形的には男川左岸の段丘上に位置します。

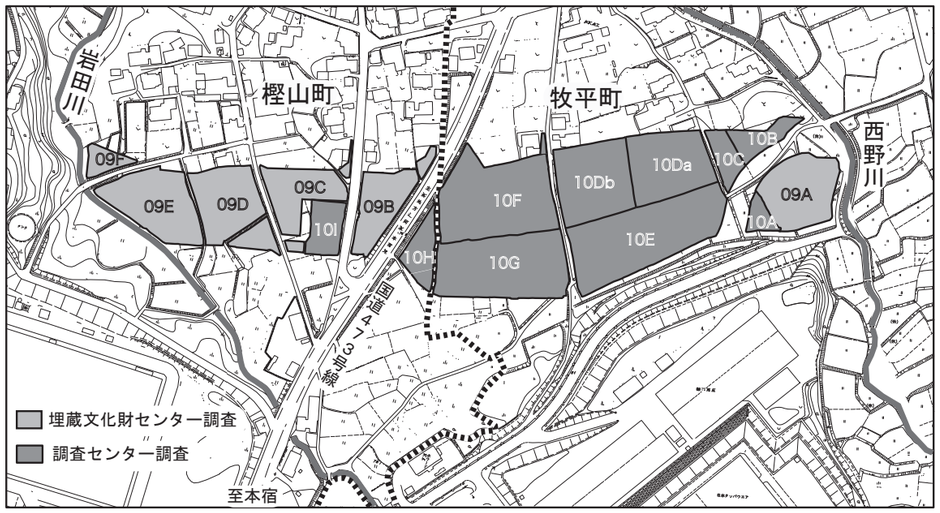
ここでは旧石器時代から近世に及ぶ遺構が確認されていますが、まず注目できるのは旧石器時代で、多くの石器類と共に県内ではあまり確認されていない礫群も確認されています。

次に、中世では 12 世紀から 15 世紀後葉の屋敷地や墓域などが確認されています。このうち 13 世紀末から 15 世紀初頭には「竪穴状遺構」と呼ばれるや遺構（066SI や 299SI）が確認されています。これらは掘立柱建物と一体で機能していたものとも考えられ、細部の特徴からこれらが「馬小屋」であった可能性も指摘されています。

▲調査区　遠景　西から



▲旧石器　出土集中部と周辺



▲調査区　位置図（愛知県埋蔵文化財調査センター 2013 より）

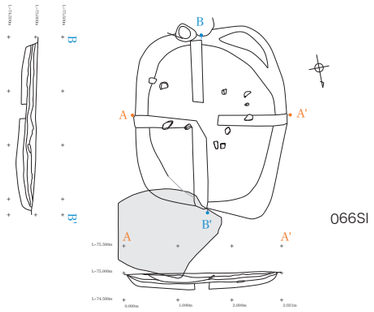
▲ナイフ形石器

▲ナイフ形石器

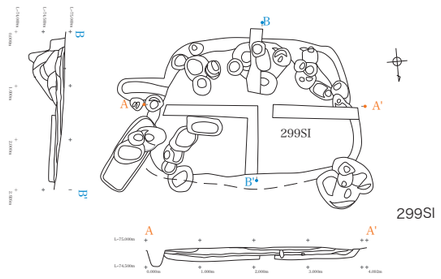
▲09A 区　方形土坑（011ST）　東より撮影

▲09A 区　方形土坑（011ST）　から出土した小刀

▲09B 区　溝から出土した銭貨（寛永通宝）



▲10I 区　竪穴状遺構（066SI）　平面図



▲10I 区　竪穴状遺構（299SI）　平面図

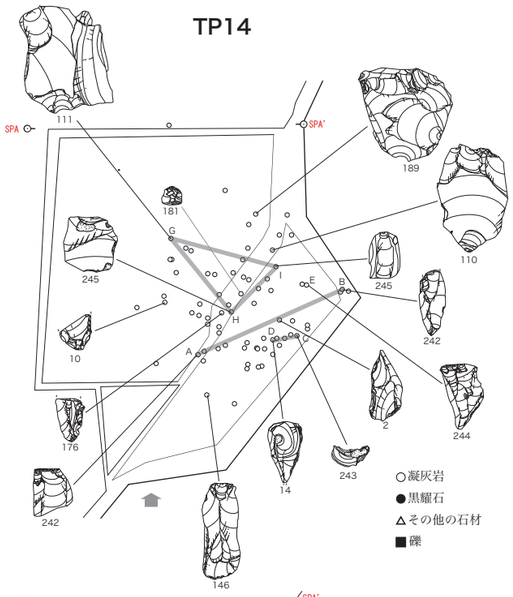
▲10I 区　竪穴状遺構（066SI）　完掘状況

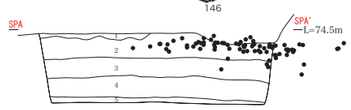
▲10I 区　竪穴状遺構（299SI）　完掘状況

▲旧石器集中部の石器出土位置

▲09Cb 区　旧石器出土状況（北より）

▲09Cc 区　旧石器出土状況（東より）

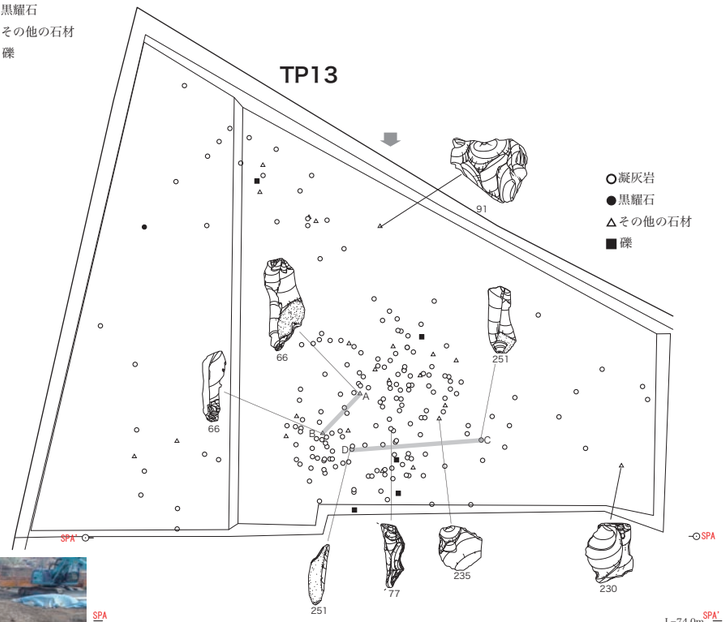


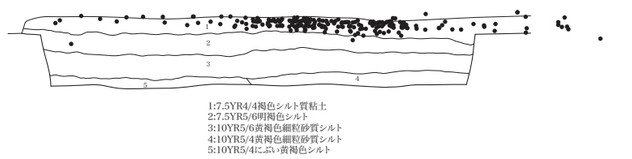


1:7.5YR5/6明褐色細粒砂質シルト
2:7.5YR5/6明褐色細粒砂質シルト
3:10YR5/6黄褐色中粒砂質シルト
4:2.5Y5/4黄褐色中粒砂質シルト
5:2.5Y6/4にぶい黄色中粒砂質シルト

▲09C 区 TP14　遺物出土状況

▲09C 区 TP14　遺物出土状況（北西より）





1:7.5YR4/4褐色シルト質粘土
2:7.5YR5/6明褐色シルト
3:10YR5/6黄褐色細粒砂質シルト
4:10YR5/4黄褐色細粒砂質シルト
5:10YR5/4にぶい黄褐色シルト

▲09D 区 TP13　遺物出土状況

▲09D 区 TP13　遺物出土状況（西より）

●西牧野遺跡の中世

愛知県埋蔵文化財調査センター　成瀬　友弘

西牧野遺跡の中世の遺構は12世紀から15世紀後葉まで確認されていて、Ⅰ期（13世紀以前）、Ⅱ期（13世紀末～15世紀初頭）、Ⅲ期（15世紀）の概ね３時期に分けることができます。

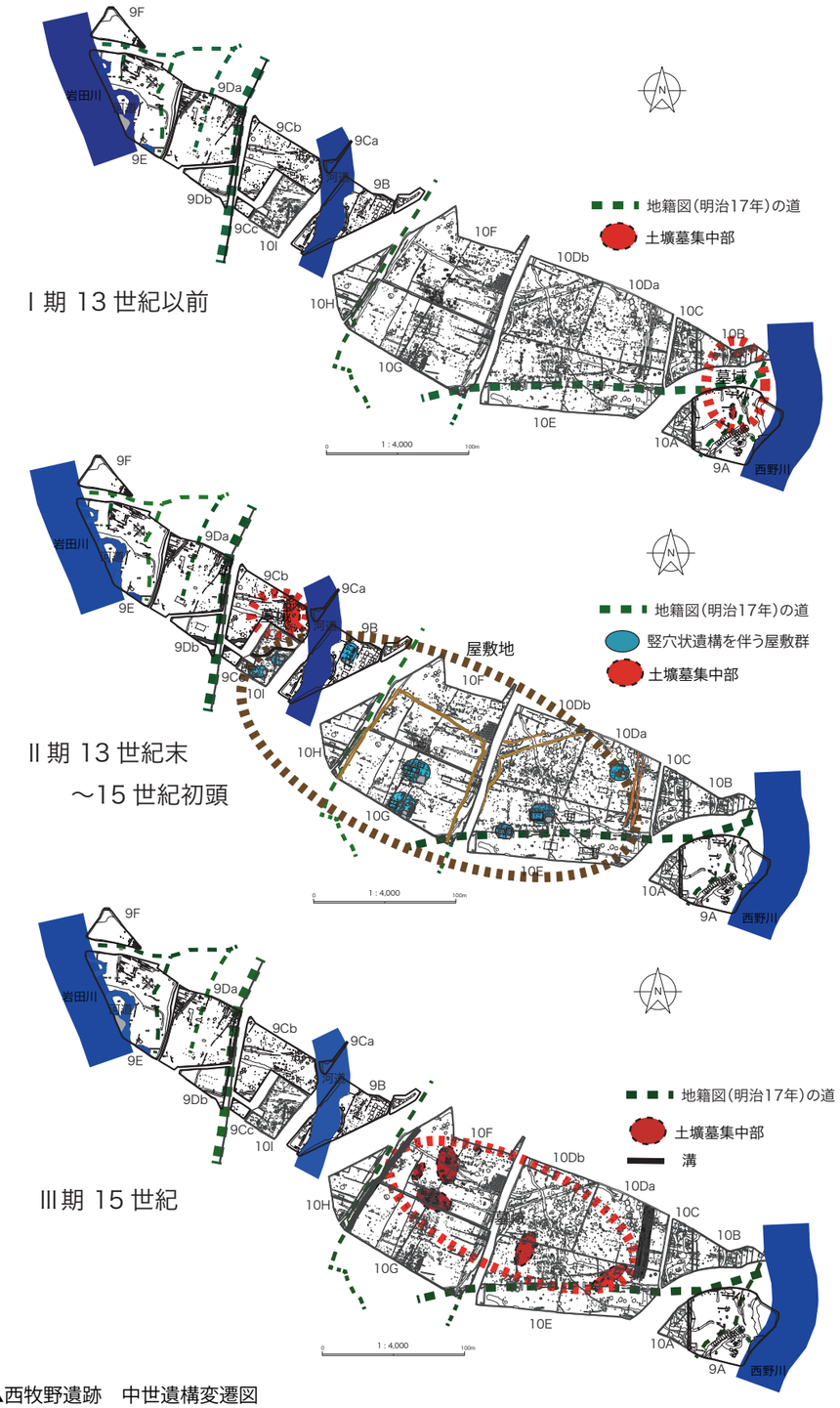
中世の西牧野遺跡は13世紀以前には、遺跡の東端に墓域が広がる場所であったのが、13世紀末以降急速に屋敷地として整備され、15世紀には広い範囲で墓域に、15世紀末には再び利用状況がわからなくなっています。「額田町史」によると中世の西牧野は牧平地区を支配する三浦氏と樫山地区を支配する樫山氏の勢力の境界にあたります。遺構の変遷を見てみると13世紀末以降に屋敷地ができ15世紀初頭に無くなる状況は樫山氏に関連するものではないかと思われます。樫山氏は1350（観応元）年に起きた観応の擾乱（かんのうじょうらん）で樫山十郎義胤（かしやまじゅうろうよしたね）が足利直義（あしかがただよし）方についたことがわかっており、この影響で樫山氏は勢力を衰えさせていることから本遺跡の屋敷地の状況と一致します。ただ男川流域の額田地区の中世は史料などが乏しく、現在こうした推論を証明することは困難です。今後新たな史料などが見つかることを期待しています。

▲10F 区　区画溝

▲10G 区　竪穴建物跡と掘立柱建物跡

▲10F 区　土壙墓群

▲10F 区　145SK（炭化材）



▲西牧野遺跡　中世遺構変遷図

八畝畑遺跡（やせばた）

愛知県岡崎市正名町吹野・八畝畑

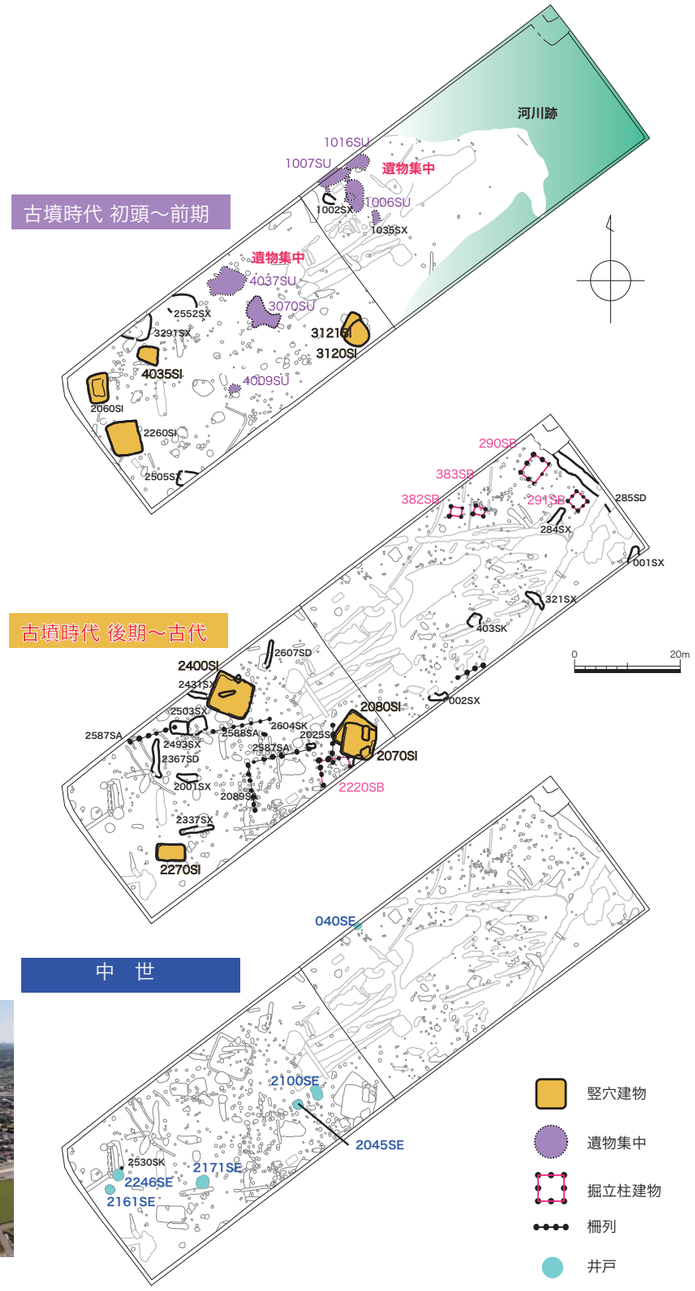
調査面積　3,500 ㎡　　調査期間　2013 年 5 月～2013 年 10 月

愛知県埋蔵文化財センター　松田　訓・宮腰健司

八畝畑遺跡は正名町吹野・八畝畑に所在します。地形的には矢作川及びその支流によって形成された沖積低地に位置し、洪水性の堆積物に覆われた古墳（こふん）時代の遺物集積や、弥生（やよい）時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡（たてあなたてもの・あと）・溝（みぞ）・土坑（どこう）などを検出しました。

また、これらの上層からは、古代の竪穴建物跡・溝・土坑や中世の井戸などが検出されていますので、調査地点が度々居住域として利用されていたことが考えられます。

八畝畑遺跡は矢作川左岸に位置する集落や古墳群と関係していると想定され、矢作川流域の遺跡を解明する上で貴重な資料を提供しているものと考えられます。



▲調査地点遠景（北西から）

▲古墳時代初頭から前期　遺物集中地点 1016SU

△甕　△甕　△柳ケ坪型土器

▲1016SU から出土した遺物

▲古墳時代 初頭から前期　竪穴建物跡 3120SI,3121SI

▲古墳時代 初頭から前期　竪穴建物跡 4035SI

▲古墳時代 後期から古代の竪穴建物跡　2270SI

▲古墳時代 後期から古代の竪穴建物跡　2400SI

▲中世の井戸　2171SE

▲B 区　調査風景

●八畝畑遺跡出土の柳ヶ坪型土器と畿内系(産)土師器

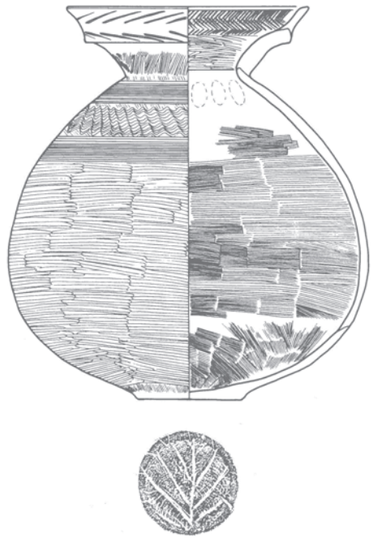
愛知県埋蔵文化財センター　宮腰健司

柳ヶ坪型土器

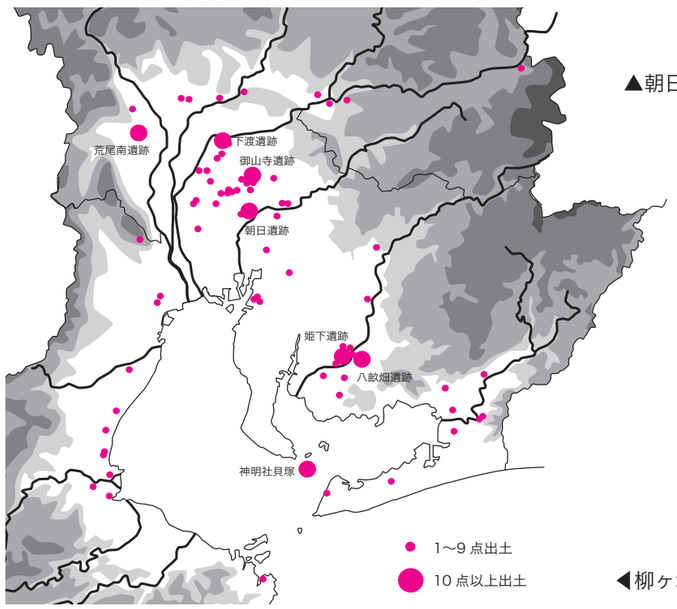
「柳ヶ坪型土器」は1952年に愛知県東海市で発掘された土器から命名されています。この土器は、1. 口縁部が有段状を呈する、2. 内面に羽状の連続刺突が施される、3. 体部の文様は上部のみで、直線文と波状文が組み合わされる、4. 底部は比較的大きく、木葉痕がみられる、5. 赤彩は施されない、といった特徴をもっています。弥生時代末から古墳時代早期にかけて類似した土器は存在しますが、定型化した「柳ヶ坪型土器」が出現するのは３世紀中頃で、４世紀になると急激に廃れていきます。

また「柳ヶ坪型土器」は、地域でも中心となるような遺跡から、まとまって出土する傾向がみられ、多数出土する八畝畑遺跡も当時の有力な遺跡のひとつであったと思われます。

▲八畝畑出土の柳ヶ坪型土器



▲朝日遺跡（清須市）出土の柳ヶ坪型土器

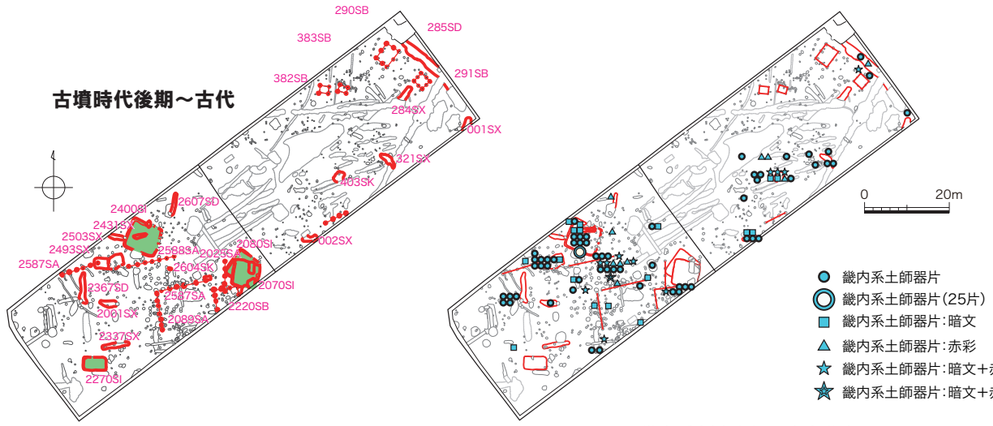


◀柳ヶ坪型土器の出土地点

畿内系（産）土師器

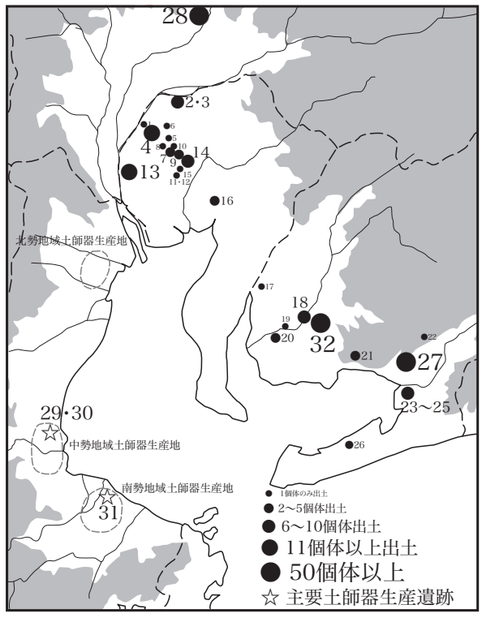
7世紀ごろから、当時都があった奈良の飛鳥・藤原・平城京周で用いられた丸底の杯のことを畿内産土師器と言います。赤焼きの杯の外面には丁寧なミガキが、内面には「暗文」と呼ばれる文様を放射状に施文され、金属器の光沢や質感を表そうとしています。また赤彩されたものも見受けられます。この時期の近畿地方では、この形の杯が主流となっており、それを模倣したものが各地で作られます。それらを畿内系土師器と呼び分けていますが、はっきりと区別することはできません。

この地方でも、岐阜県関市弥勒寺東遺跡や三河国府跡など官衙に関連する遺跡から多く出土しており、律令体制の中で都との結びつきを示す遺物として注目されます。八畝畑遺跡でも7世紀から８世紀にかけて、この畿内系（産）土師器が多数出土しており、中央政府に連なる役所などの施設との関係が考えられます。



▲古墳時代後期～古代主要遺構分布

▲畿内系(産)土師器出土分布図



▲伊勢湾岸地域の畿内系（産）土師器出土遺跡
（樋上 2001『八王子遺跡』に加筆）

1. 大平遺跡(尾西市)
2. 大毛池田遺跡(一宮市)
3. 大毛沖遺跡(一宮市)
4. 八王子遺跡(一宮市)
5. 三ツ井遺跡(一宮市)
6. 高畑遺跡(一宮市)
7. 尾張国府推定地(稲沢市)
8. 東畑廃寺(稲沢市)
9. 北市場屋敷遺跡(稲沢市)
10. 清敷遺跡(稲沢市)
11. 大渕遺跡(甚目寺町)
12. 甚目寺遺跡(甚目寺町)
13. 川田遺跡(佐織町)
14. 清洲城下町遺跡(清洲町)
15. 廻間遺跡(清洲町)
16. 東古渡町遺跡(名古屋市中区)
17. 芋川遺跡(刈谷市)
18. 矢作川河床遺跡(岡崎市)
19. 加美遺跡(安城市)
20. 住崎遺跡(西尾市)
21. 西川原1号墳(幡豆町)
22. 膳棚2号墳(一宮町)
23. 市道遺跡(豊橋市)
24. 公文遺跡(豊橋市)
25. さんまい貝塚(豊橋市)
26. 山崎遺跡(田原町)
27. 三河国府跡(豊川市)
28. 弥勒寺東遺跡(岐阜県関市)
29. 堀田遺跡(三重県一志郡嬉野町)
30. 片野遺跡(三重県一志郡一志町)
31. 北野遺跡(三重県多気郡明和町)

32. 八畝畑遺跡(岡崎市)

▲八畝畑遺跡出土の畿内系（産）土師器

くるまづか
車塚遺跡

愛知県岡崎市岩津町字車塚

調査面積　9,530 ㎡　　調査期間　2009 年 7 月～ 2011 年 8 月

愛知県埋蔵文化財センター　池本正明・鈴木恵介

車塚遺跡は岩津町に所在します。地形的には矢作川の上位段丘の河川の浸食等から残された小規模な平坦面に該当し、北側が急峻な斜面、西と南側が緩やかな斜面となります。

調査の結果、縄文時代・弥生時代・古墳時代後期～奈良時代・中世以降の 4 時期の遺構が確認されましたが、多くは中央の平坦面に集中しています。平坦面には竪穴建物跡や掘立柱建物跡が検出されておりますので、居住域と考えられます。一方、南側の緩斜面は墓域となり、弥生時代の方形周溝墓と、古墳時代後期～終末期の古墳が密集して確認されました。

▲10A区遠景　北より

▲横穴式石室を持つ古墳　10A区003SZ

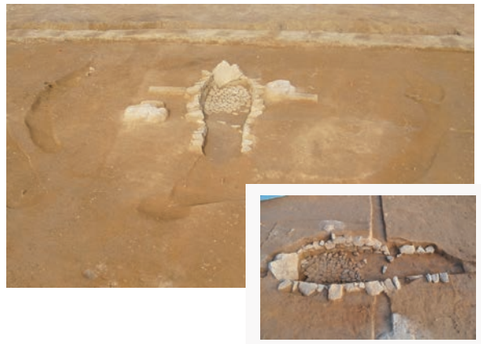
▲奥壁側から見た石室（10A区003SZ）

△須恵器　平瓶　（10A区003SZ出土）

△須恵器　高坏

△須恵器　坏蓋

△須恵器　坏身



▲横穴式石室を持つ古墳　10A区005SZ

△金環

△金環

△鉄鏃

▲10A区005SZからの出土遺物

▲横穴式石室を持つ古墳　09区080SZ

△須恵器　脚付短頸壺

△金属器　靫

▲09区080SZ出土品

●車塚遺跡の古墳時代後期のガラス玉

愛知県埋蔵文化財センター　鈴木 恵介

出土の状況

車塚遺跡のガラス玉は、2009年度調査区の080SZ、888SZの２つの古墳から出土しました。ガラス玉の多くは石室内（せきしつない）の土を篩（ふるい）にかけた結果、検出されたものです。今回はこれらのガラス玉の分析によって判明したことを報告します。

ガラス玉の製作技法

ガラス玉は２つの製作技法によって作られたことが判明しました。鋳型（いがた）によるもの（鋳型法）と引き伸ばしたガラス管を裁断する方法（引き伸ばし法）によるものです。前者については国内各地で鋳型の出土例があり、平成24年度の埼玉県本庄市・薬師堂東遺跡の発掘調査で完形品の鋳型出土例があります。後者は国内での生産についての証拠が発見されておらず、外国からの搬入品と考えられています。

車塚遺跡のガラス玉は、080SZ出土の8点中、７点が引き伸ばし法、１点が鋳型法でした。888SZでは101点のうち、１点のみが引き伸ばし法、他は全て鋳型法によるものでした。

ガラス玉の成分分析

ガラス玉の成分分析では、特徴的な結果が見られました。酸化マンガンと酸化カリウムの組成比をみると、車塚遺跡888SZのガラスは、他の遺跡と大きく異なり、まとまりがありませんでした。元来の引き伸ばし法によるガラス玉を材料として鋳型法で作成したとするならば、ある程度のまとまりができると予想されます。なのでこのガラス玉たちは、いわゆる混ぜ物をしているのではないかと考えています。

494　080SZ

489　080SZ

499　888SZ

591　888SZ

500　888SZ

511　888SZ

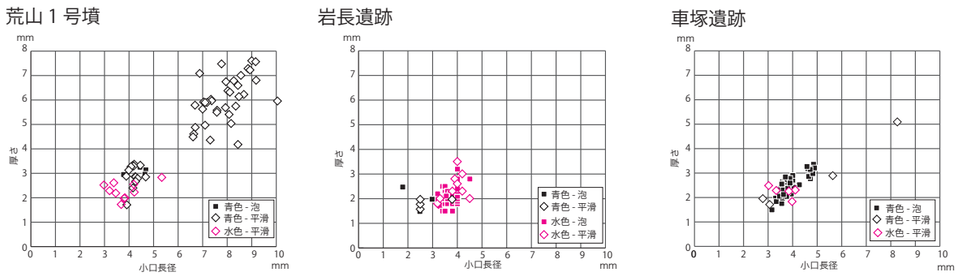
579　888SZ

09区080・888SZの位置

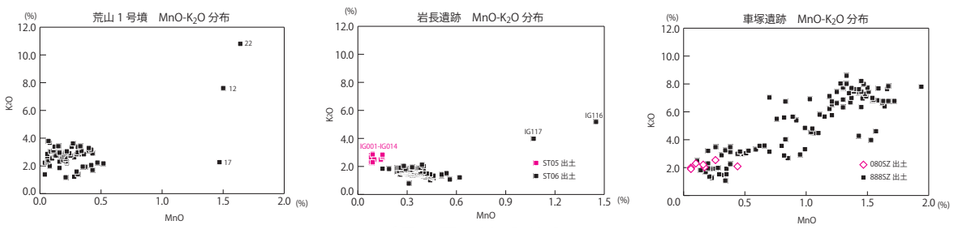
09区080SZ

09区888SZ

▲３遺跡の位置（S=1/500,000）



▲ガラス玉の形状



▲ガラス玉のMnO-K2O

たきちょうこよう
滝町古窯

愛知県岡崎市滝町

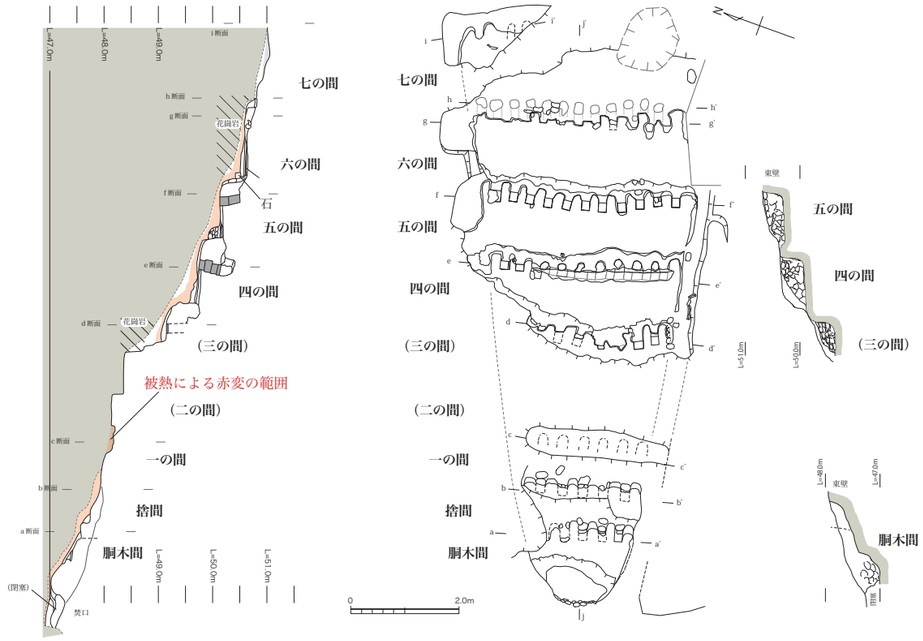
調査面積　400 ㎡　　調査期間　2008 年 4 月～ 10 月

愛知県埋蔵文化財センター　武部真木

滝町古窯は、室町時代の様式を伝える三門と本堂（国指定重要文化財）や瀧山東照宮のある古刹として、また奇祭「鬼まつり」で有名な天台宗瀧山寺の寺域内に所在します。窯跡は、現在も墓地となっている丘陵の西側の斜面に築かれてあり、江戸時代後期の連房式登窯 1 基と物原（失敗品、窯道具などの廃棄場所）を確認しました。

この窯跡で主に焼成されたのは磁器の染付碗であり、製品の特徴や文様パターン、製作技法などは 19 世紀中頃の瀬戸窯のものとよく似ています。窯道具の「エブタ」に刻まれていた「東叡山青龍院」の文字は、この窯跡と江戸上野寛永寺との繋がりを示すものであり、窯を経営したと考えられる瀧山寺の由緒を伝える重要な資料となりました。

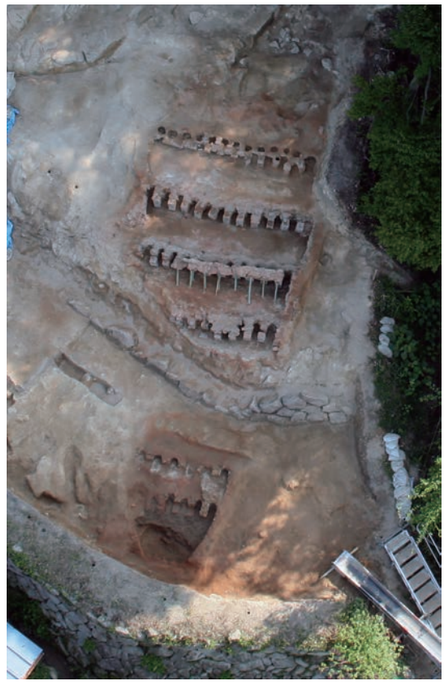
▲遺跡遠景



▲滝町古窯　窯体図

▲六の間付近

▲完掘状況（三の間より後方）


▲窯体付近

△端反碗D　△湯呑B　△端反碗C　△端反碗E　△色見
▲磁器飯碗類

△家紋？ 左右で表裏の関係になります。

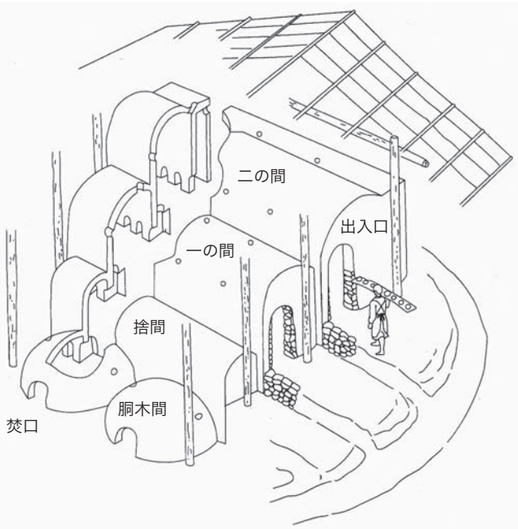
△戯れ描き？の顔　△草花
▲窯道具「エブタ」にみつかった刻書（画）

▲現代の連房式登窯例（瀬戸市赤津町 ）

←焼成室（製品を焼くところ）の出入口付近には耐火レンガ①が積まれています。窯や壁面の部材、出入り口をふさぐために使われます。大量の製品を並べて焼くための棚板②（長方形の板状のもの）もみえます。

江戸時代後期の窯である滝町古窯では、高さの異なる四角形のクレ（箱グレ）と、楕円形のニギリグレが使われていました。ここでは製品を入れた匣鉢③（さやばち、エンゴロ）を幾つも積み上げる形で量産をしています。降灰を防ぐため匣鉢の上に載せるエブタには、円形や正方形の板④があり、製品の痕跡が残るものがあります。積み上げられた匣鉢の隙間に固定のために詰められた粘土棒⑤（ハリ、ニギリ）や不要となったトチ⑥などの窯道具類、製品の失敗品が窯の周囲に大量に廃棄されていました（物原 下写真）。

窯体の構造や窯道具類、磁器製品の様相は、当時の瀬戸窯とほぼ同じ技術とみられます。



▲古窯復元図（瀬戸市・赤重窯跡現地説明会資料図に加筆）

▲滝町古窯から出土した窯道具

▲滝町古窯の物原（深さ最大1.5mまで調査）

▲栓（出入り口付近に残す窓、色見穴をふさぐ）

▲ニギリグレ（窯壁部材に使用）

▲箱グレ（狭間柱に使用）

これまでに県内では瀬戸市域・豊田市域（藤岡地区）を除くと、近世の磁器窯は見つかっていませんでした。調査によりこの窯跡が瀧山寺と繋がる興味深い遺跡であることが判ってきました。

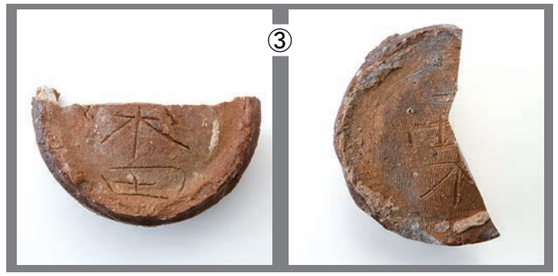
17頁写真のエブタに刻まれていたのは、家紋状の図柄と「東叡山　青龍院内　栗田源二郎　源盛方」の文字です。東叡山とは江戸上野の寛永寺をいい、青龍院は正保元年（1644）に建立された寛永寺の子院の一つをさすと考えられます（下図）。

三門（仁王門）の建立が鎌倉時代に遡るとされる滝山寺ですが、江戸時代前期の同じ頃大きな変化がありました。正保3年（1646）瀧山東照宮が建立されています。

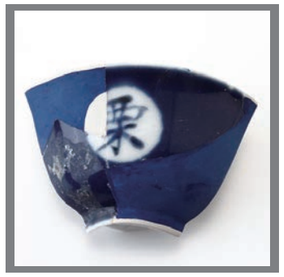
この東照宮別当と瀧山寺住職（学頭）務めた亮盛という人物は、将軍家に仕え寛永寺を開いた天海の弟子にあたり、寛永寺青龍院の住職でもあったのです。

瀧山寺の寺域内に窯が築かれたのは、時代が降って19世紀前半頃のことですが、先述の資料のほかに「栗」の染付端反碗、「栗」「（栗）田」と刻まれた匣鉢などがあり、寛永寺と関連する注文品も生産していたようです。窯の経営に瀧山寺が直接関与していたことがこれで明らかとなりました。

滝町古窯には瀬戸窯の工人が来ていたと考えられます。当時の窯業生産の体制や経営について考える上で貴重な事例を加えることになりました。

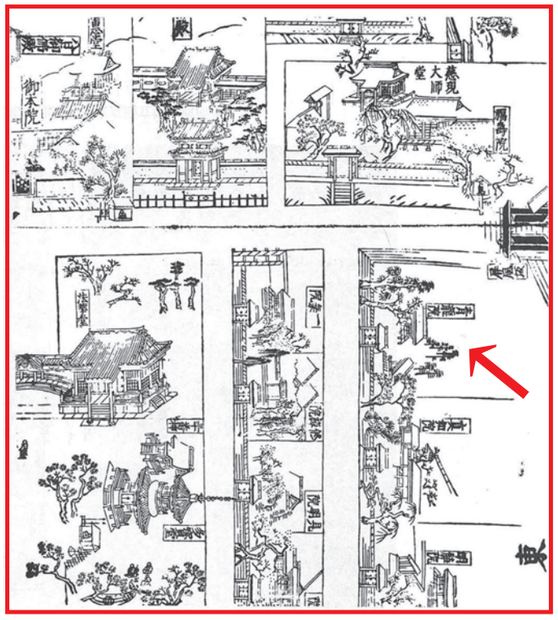


▲「（栗）田」の刻書がある匣鉢　▲「栗」の刻書がある匣鉢



▲丸に「栗」と書かれた端反碗
（器壁は薄く比較的丁寧に作られています）

拡大図→



▲「東叡山古図」（国立国会図書館蔵）17世紀中期に成立
寛永寺古図では最も古いものであり、建立時の姿を伝える。なお「青龍院」は明治7年より前の古図に認められる.

【東叡山古図　参考文献】
国立科学博物館上野地区埋蔵文化財発掘調査団 , 1995,『上野忍岡遺跡　国立化学博物館（たんけん館・屋外展示模型）地点　発掘調査報告書』
都立上野高等学校遺跡調査団 , 1988,『東叡山寛永寺護国院　都立上野高等学校改築に伴う第一次調査概報』都立上野高等学校遺跡調査会

おかざきじょう
岡崎城跡

調査期間
菅生川端石垣：2016 年 12 月 7 日～2017 年 2 月 28 日
月見櫓：2017 年 8 月 14 日～2017 年 9 月 22 日

岡崎市教育委員会　山口遥介・中根綾香

岡崎市教育委員会では「岡崎城跡整備基本計画 - 平成 28 年度改訂版 - 」（H29.3）に基づき積極的に調査研究を進めています。

◆菅生川端石垣

【発掘調査の目的】

○平成 27 年度に確認された菅生川端石垣について、石垣両端部や構築状況（根石や胴木、裏込めの状況等）を確認することを目的に実施しました。

【遺跡概要】

○岡崎城の総構えの南辺を構成する菅生川（乙川）に面した石垣で、正保元年（1645）までには完成していたとされます。

○石垣の南にはさらに籠崎堤という人工の土堤が同時期に構築されていることから、城郭南辺の城壁石垣であるとともに、菅生川に対する治水（堤防）の役割も果たしていたと考えられます。

○絵図と現地での確認によれば、石垣は総延長約 400mに渡り構築され、川筋に平行して直線的に築かれていますが、3 箇所の枡形が突出しています。

○平成 27 年 12 月に初めて試掘調査を実施し、石垣が良好に残存することが確認されています。

【調査成果】

○石垣東西端部と思われる折れを確認し、石垣の総延長が約 400mに及ぶことが分かりました。

○石垣は近世を通じて何度かの改修が認められますが、良好に残存することが分かりました。

○石垣根石・胴木を確認し、石垣の総高が 5.4mであることが分かりました。

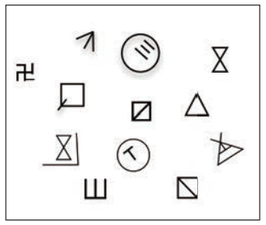
○多種多様の石垣刻印（12 種類）

▲絵図に見る菅生川端石垣

▲東端部の折れ

▲西端部の折れ

▲根石及び胴木


▲確認された刻印

▲良好に残存する石垣

◆月見櫓

【発掘調査の目的】

○絵図や古写真に残る月見櫓とその周辺について残存状況を確認するために実施しました。

【遺跡概要】

○絵図に「月見櫓」と明記されるのは江戸時代中期になってからですが、江戸時代初期の絵図にも二重櫓が描かれています。

○明治 6 ～ 7 年にかけて解体される前の古写真からは、月見櫓は重箱櫓で、2 階の南半が板戸で開放されることや高欄が廻ることなどから月見櫓に相応しい姿を伝えています。

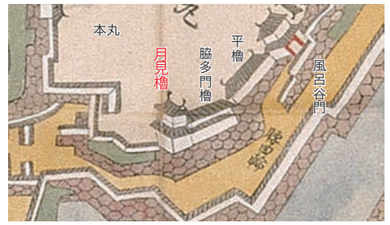
【調査成果】

○月見櫓の基礎石積みを確認し、規模が東西 6.2m、南北 8.7mであることが分かりました。江戸時代の「書上文書」（1770 年）の記載とは異なることから建替えや拡張が行われた可能性があります。

○脇多門櫓の基礎石積みを確認し、規模が東西 16.2m、南北 5.1 ～ 5.3mを測り、「書上文書」の記載（東西約 16.2m、南北 5.4m）とほぼ一致することが分かりました。また、基礎石積みの外周に石組溝が確認され、雨落ち水や周辺の排水用としての機能が想定されます。

○平櫓の基礎石積みは確認されませんでしたが、脇多門櫓から連続して延びる石組溝が確認されたことから、本丸南側の建物周辺の排水が一体的に整備されていることが想定されますが、風呂谷門周辺部では石組溝が確認できておらず、その排水先の状況については不明です。

○風呂谷門東側で石垣を確認しました。石垣は風呂谷門及び枡形に関連する可能性がありますが、調査区内のみでは詳細まではわからず、さらに周辺部での検証が必要です。



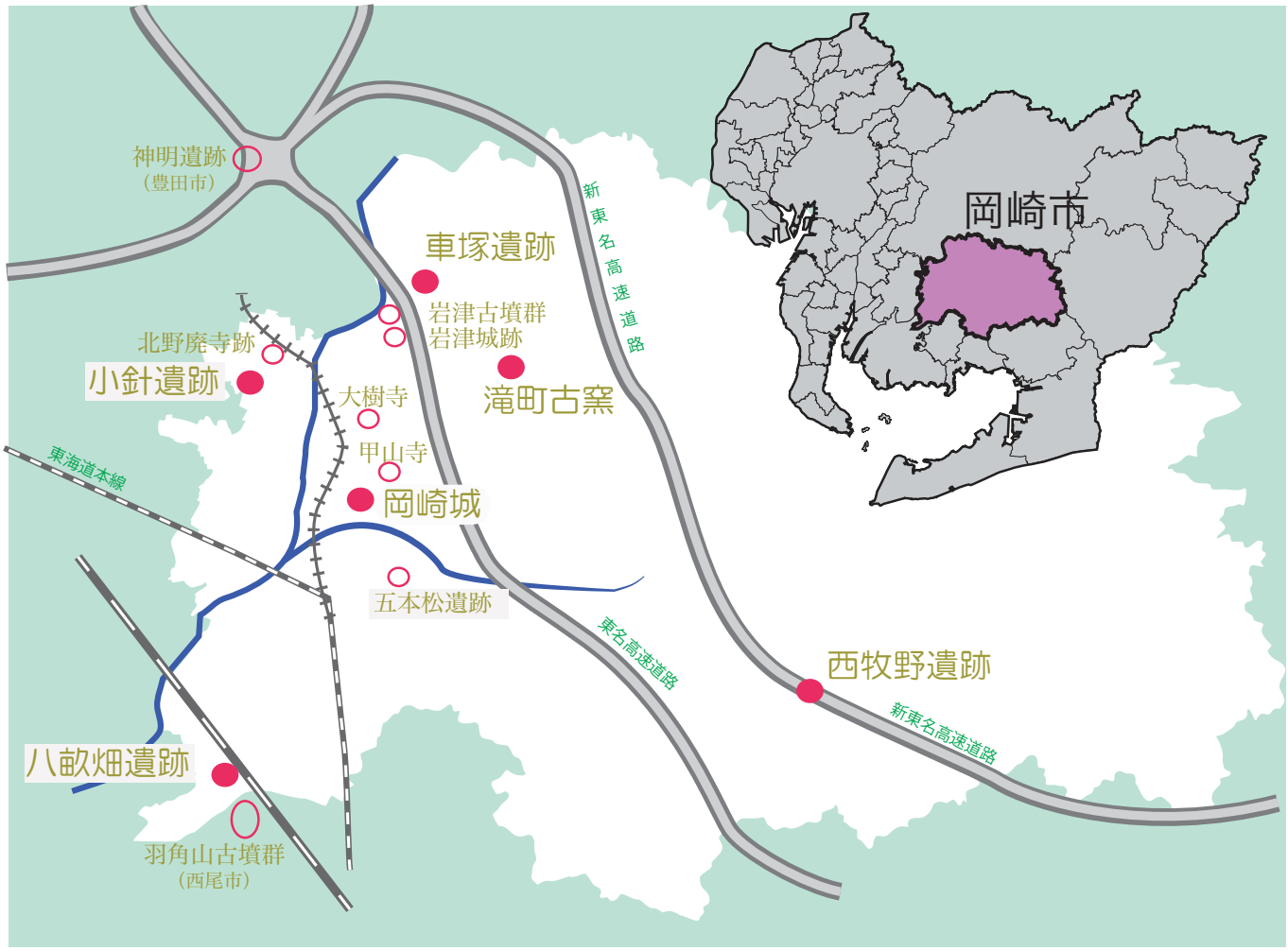
▲明治初期の月見櫓

▲月見櫓

▲脇多門櫓基礎石垣と石組溝

▲風呂谷門石垣

岡崎市の主な遺跡



公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　弥富市前ケ須町野方 802－24
電話　0567-67-4163
URL　http://www.maibun.com/top/

＊今回の発表のほか、当センターが行なってきた遺跡の調査報告書などがご覧いただけます。
報告書掲載写真のデータベース「遺跡アルバム」もご覧ください。

岡崎市教育委員会 社会教育課　文化財係
〒444-8601　岡崎市十王町 2 丁目 9 番地
電話　0564-23-6177
URL　http://www.city.okazaki.lg.jp/1300/1304/1332/index.html

＊今回の発表のほか、平成 26 年度から続く岡崎城の発掘調査情報は、上記のページよりご覧いただけます。どうぞご活用ください。